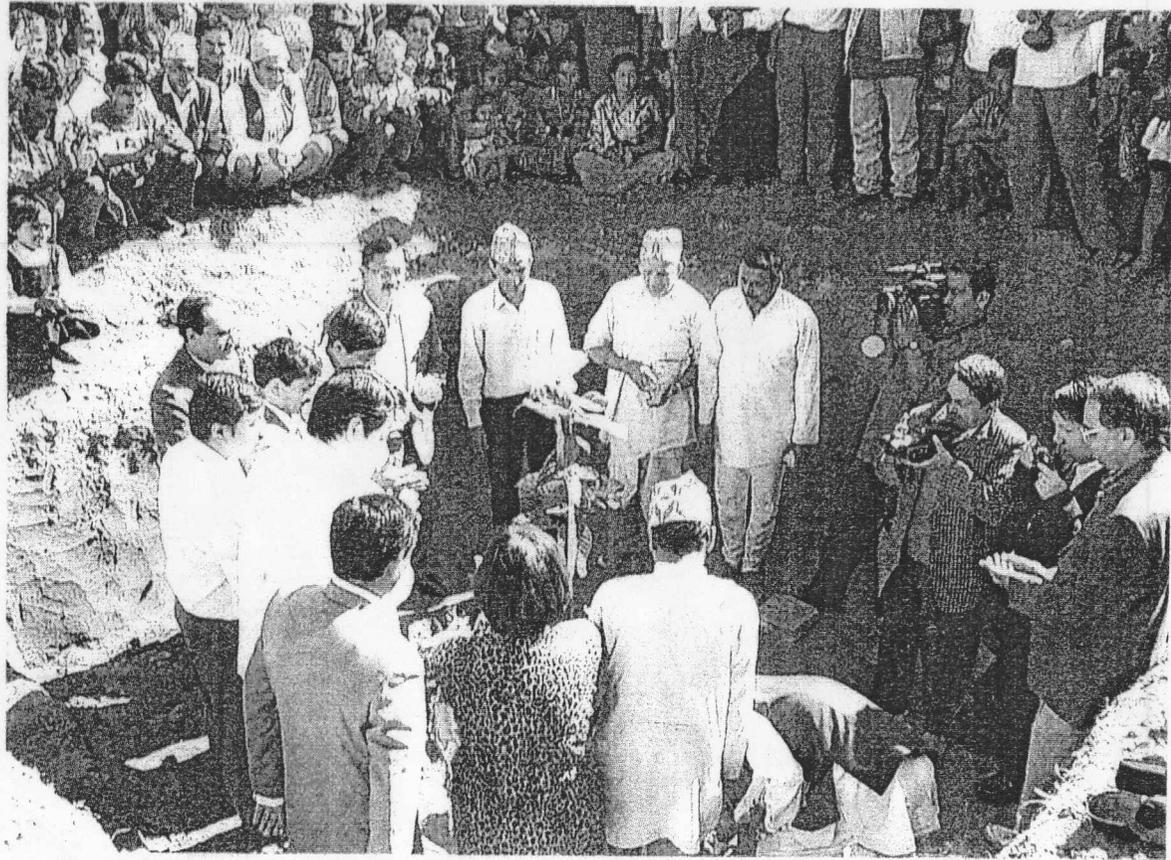


# みんなの善意で子ども病院ができる



毎日新聞の読者からの基金をもとに、ネパール・プトワル市で建設計画が進んでいた子ども病院の起工式が6日、現地で行われた。

1995年の阪神大震災の際アジア・アフリカの途上国から寄せられた救援に、「お返し」をしようと始まった計画が現実となった。

ネパールには小児専門病院が一つしかなく、5歳未満児の死亡率は日本の約20

## 阪神大震災のお返し ネパールで起工式

倍。式典には地元の人たちだけでなく、海を越えて多くの人が集まった。

プトワル市の子ども病院は、毎日新聞社会事業団と、国際医療NGO（非政府組織）のAMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）との連携で建設する。

起工式は午前10時半（日本時間午後1時45分）に始まり、セレスト・ボーズ・プロサル・プトワル市長、山本泰久、写真も）

菅波茂・AMDA代表ら約2000人が出席した。プロサル市長は「皆さんに、心からお礼を言いたい」。菅波代表は「この病院が、大勢の家族の幸せにつながることを望みます」と喜びのあいさつをした。

【プトワル（ネパール）で